

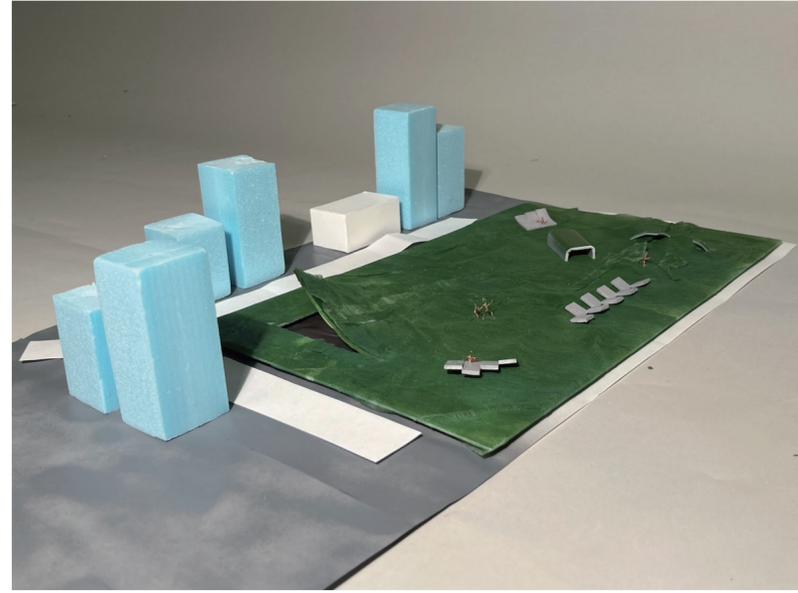
めくり喫茶

～ GL の上に物体をのせることへの懐疑～



01 導入

近頃の日本の都市部では、ビルの建て直しや再開発が目立ち背の高い建物がそびえ立っている。ただの四角い箱とならないよう、曲線を用いたり箱が一部削ぎ落とされたような形となっていたり工夫が凝らされている。しかし、それは周りの空間がどこか閉鎖的になってしまっていないだろうか。また自然を感じる地面を潰してしまっていないだろうか。そこで私たちは"地面をめくる"カタチを提案する。これは単にグラウンドレベルの上に物体を置くのではなく、そのグラウンドレベルを巨人の視点でめくり、その裏には何があるかと好奇心に満ちた設計である。公園と公園に併設したカフェを設計し、背の高い建物が建て並ぶ中に地面への興味をそそる建築とする。



02 敷地

赤い斜線部の豊洲四丁目第二公園を敷地として設定した。近くにある青い円で示した Y 字路が特徴的で、左右をビルに囲まれ、Y 字路を公園側に抜けると視界が広がる。周辺は 10m～20m ほどの商業用ビルと新しく建て替えられた都営住宅に囲まれている。近くには小学校があり、工事前の公園はたくさんの子どもたちの遊び場として賑わっていた。写真のように、現在も工事のため、公園は狭く制限されており、周りを背の高い建物に囲まれ閉鎖的に感じる。

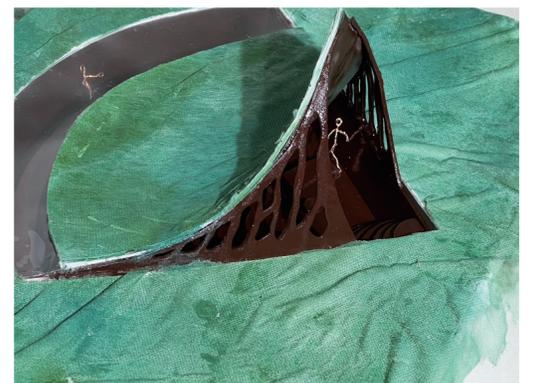
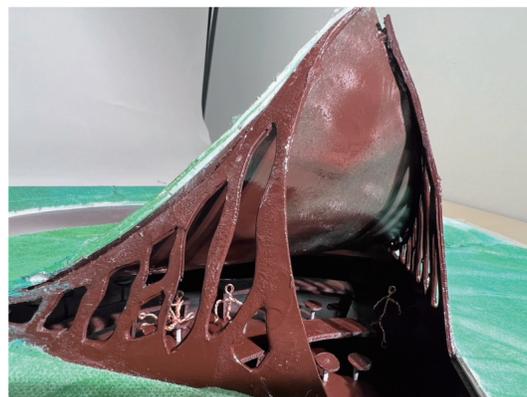


03 設計案

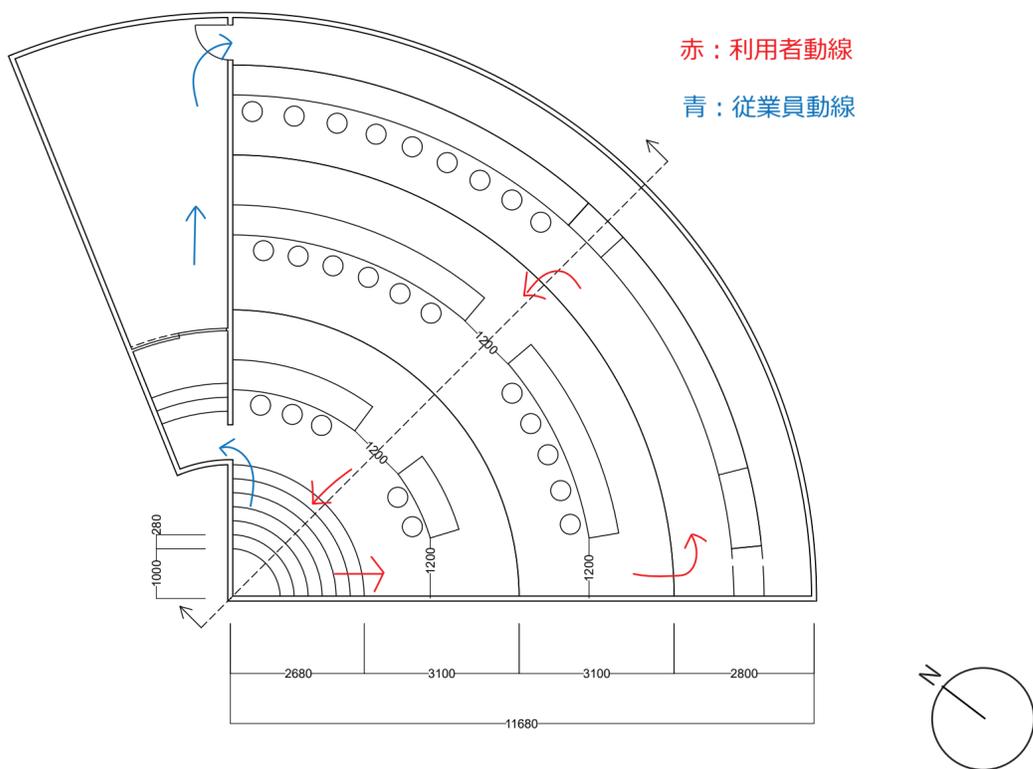


このカフェは、主に子供連れの利用客をターゲットにして設計している。子供が地上の公園で遊んでいるところを、親がカフェの中から覗けるように、天井部分に大開口を設けた。地上からコーヒーづくりを見学することもできる。

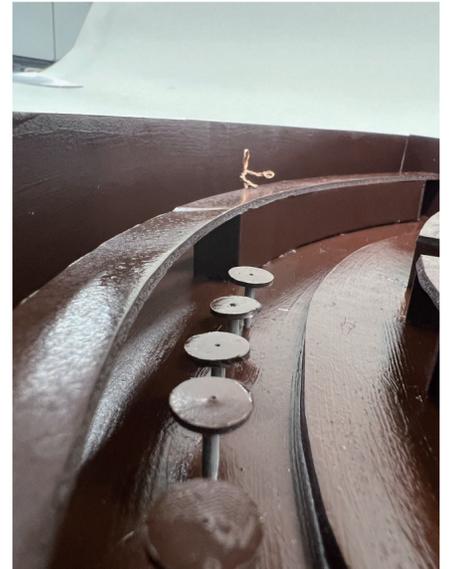
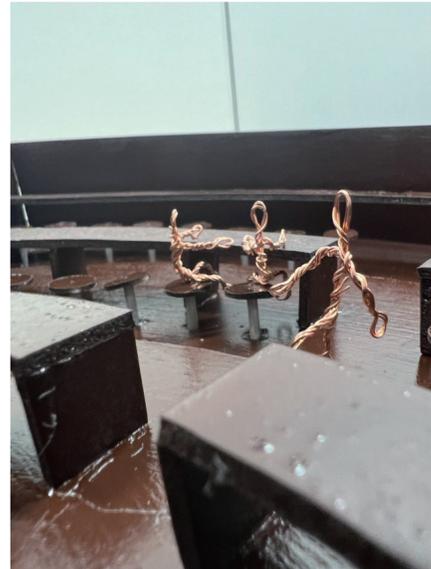
壁部分は、まるでピザを持ち上げた時にチーズが伸びるような、地面をめくったことにより土ごと引っ張られるイメージを元に設計した。これにより天井を支える構造を可能にし、不規則に空いた穴にガラスをつけることにより、ランダムに光が差し込むようになっている。



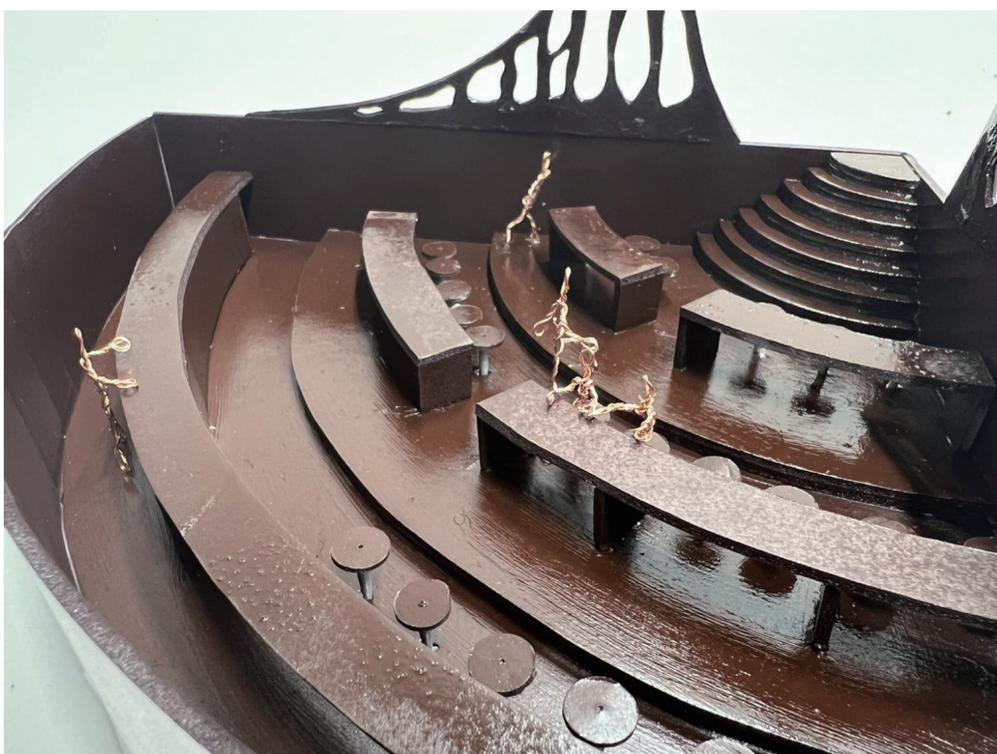
平面図 S=1/100



机、カウンター、奥の壁面、階段を全て同心円状に計画することで全体の統一感を生み出した。北側に従業員スペースを配置し、入り口から利用者の動線と従業員の動線をずらすことで内部の混雑防止を図った。



奥に進むにつれて床の高さを段々に低くすることで、各席で開口部から見える景色が変わり、さらにカフェの作業風景がどの席からも見えるようになっている。カフェの作業場がステージで利用客はそれを鑑賞できるようにつくりを目指した。



断面図 S=1/100

